

# 平成28年度 第5回（震災後第69回） 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「NPOのつよみを活かした地域づくり」

日時：平成28年8月19日(金) 13:30～15:30

場所：陸前高田市役所 4号棟第6会議室

参加：49名 15団体

資料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

## 1. 挨拶

菅野民生部長：

陸前高田は「ノーマライゼーションという言葉のいないまち」を地域課題としているが、地域的なコミュニティのあり方と地域横断的なNPOのたて糸、よこ糸がうまく組み合わさり、未来の陸前高田を一緒に創造する取り組みができればと思っている。きょうは皆さんの活発な議論の中で、その方向性が見出せればと思うので、よろしくお願ひしたい。

## 2 内容

(1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告（話題提供）

報告 NPOのつよみを活かすとは？ ～知ってつながるNPO～

・陸前高田まちづくり協働センター センター長 三浦まり江氏

報告 地域の実情に応じた地域支援事業の展開 ～ある一例として～

・陸前高田市 民生部保健課 包括支援係長 佐藤咲恵

(3) グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

・テーマ：NPOの力、市民の力、行政の力…が、どうするとつながれますか

・地域、NPO、関係機関、専門機関、行政等それぞれのつよみを活かしながら、人財の再発見と育成を積み重ね、具体的につながるために…

(1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

(陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏)

未来図会議が目指すことについて簡単に話をしたい。熊本県の蘇陽町は「寝たきりになっても花見ができるまちづくり」ということを掲げた。何を目指すのかというと、たとえ寝た

きりになっても楽しさがある、生きがいがある、安心感がある。こういうことが大事ではないかということである。

健康づくりの考え方も随分変わり、昔は病気にならないように保健師や栄養士が一生懸命指導した。これを否定するつもりはないが、これからは幸せや元気づくりを目指していかなければいけない。これがヘルスプロモーションの考え方である。QOL(生活の質)の向上など、一人で実現するのではなく、自分ができること、ともにできること、そしてネットワークづくりに向けた働きを行政が仕掛け続けることが、この未来図会議だと思っている。

国も健康日本 21(第2次)の中で「社会に参加することで健康になろう」と言っている。そのキーワードの一つが「ソーシャル・キャピタル」、日本語に訳すと「地域のつながりの強化」である。このソーシャル・キャピタルは、信頼・ネットワーク・お互いさまの3つが地域にあれば、人は健康的な行動をとるようになり、自殺も減る。それ以外に、まちおこしや防犯・治安、就労にも影響してくることがわかっている。

では、そのためには何が必要なのかということ、「協働」つまり一緒に働こうということである。協働の効果は、①行政の効率化の促進。②参加ニーズの高まり。自己実現、市民の満足度を高める参加領域の拡大、市民活動や地域づくり。③地域の実情に即したまちづくり。この3つが協働を進める上で非常に大事である。何が必要とされているのか、何をすべきか考えながら政策をつくっていく必要性が強調されている。

従来は、税金で行政にお金を納めれば行政サービスが対価として返る。それに対して、これからは市民や地域の役割が大きくなっていく。協働のまちづくりを進める必要がある。

では、市民・地域の中にどんな人たちがいるのかということ、陸前高田でもともと大事にされてきた地縁団体がある。また、社協や個人、NPOがうまくつながっていくことが、健康づくりでは非常に重要である。これからはNPOとの協働が問われるということで、その視点で三浦さん・佐藤咲恵さんの話を聞かせていただきたい。

## (2) 報告「NPOのつよみを活かすとは? ~知ってつながるNPO~」

(陸前高田まちづくり協働センター センター長 三浦まり江氏)

私たちは、震災の1年後(2012年)から地域づくりと市民活動の支援ということで、まちづくり協働センターを運営している。きょうは皆さんに「NPOとはどういうものなのか」「地域や住民とどうつながっているのか」を紹介したい。

NPOとは、市民が地域にあるいろいろな課題に対して、「何とかしよう」「より良くしよう」と自発的・主体的に取り組み、活動している非営利団体のことである。具体的にいうと、「子育てで悩んでいるが、相談するところがない」「悩みを分かち合えるところがない」「高齢者が元気がない」「災害公営住宅に引っ越したが、最近様子を見ない」など、困り事や課題にまず気づくということがスタートになる。

そこから、「どうにかしたい、何とかしたい」と思ったときに、例えば畑づくりをやろうとアイデアを考える。でも一人ではなかなかできないので、一緒にやる人を探し共感してくれる仲間ができて、その仲間とつながる。これが2つ目のステップである。

最後に、「よし、では一緒にやってみよう」「畑づくりでみんなを元気にしよう」「健康なま

ちにしよう」という目的を持って一緒に活動する。この活動が市民活動のスタートになる。

NPOの資金源は4つに分けられる。1番「会費・寄附金」。会費は、NPO団体の会費で年間幾らと決められており、寄附金は、小口や企業からいただけるものである。2番「事業収入」。これは自分たちで事業をして、その対価としてお金をいただくものである。3番「補助金・助成金」。震災後は、ここに頼っている団体が非常に多い。4番「受託事業」。これは行政から事業受託をして受け取るお金である。この4種類だが、例えば3番の「補助金・助成金」だけに頼っていると、来年はないかもしれないこともあるので、1番と3番、1番と2番というように、いろいろ組み合わせて自分たちの活動費を獲得している。

私たちNPOが一番大切にしているのは、団体の目的達成である。地域にある課題を解決して地域がよりよくなり、困っている人が少なくなるという社会や地域の実現を目指して活動している。市内では震災前から比べると法人格のあるNPOだけを数えても1団体から、約20団体まで活動団体が増えており、町別に見ても多くの団体が活動を続けている。ただし、震災から時間が経つに連れて撤退している団体もあり（当初からの時限団体もある）、現在はコミュニティづくりに関する活動内容が多くなってきている。

具体的なNPO法人の紹介をしたい。①小友町の「陸前たがだ八起プロジェクト」、②震災前から高田町に活動拠点のある「きらりんきっず」、③全町を対象としている「陸前高田市復興支援連絡会」である。②以外は震災後の応急仮設住宅での活動から始まっているが、特徴は仮設住宅を出られた後も行き先々の状況にかかわらず、人と人をつなぎ続ける関わりを継続していることにある。②も震災前の人も現在の人もつなげる場を提供し続けており、行政のように根拠事業目的の縛り等でこぼれがちな部分を相互に補いながら誰にとっても暮らしやすい、まさしくノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりにつながる活動を続けている。

NPOのつよみは、基本的には住民の皆さんや地域の声が活動の開始につながるので、「現場の声を拾う」ということが1つとしてある。2つ目に「専門性が高い」。いろいろな分野に特化した活動をしているので、その分野において専門性が必然的に高くなる。3つ目は「公益性が高い」。利益よりも、困っている方の悩み事を優先して解決するということである。4つ目として、「独自のネットワークを持っている」。同じ分野で活動している団体同士や市内外の専門家、団体とつながっている。

では、個人がNPOとどうつながればいいのか。広報紙や会報を見る、イベントに参加する、団体のスタッフと顔見知りになるなどあるが、陸前高田まちづくり協働センターはNPOの窓口になっているので、当センターに一度ご相談いただければと思う。

## **（2）報告「地域の実情に応じた地域支援事業の展開 ～ある一例として～」**

**（陸前高田市 民生部保健課 包括支援係長 佐藤咲恵）**

介護保険の制度が変わり、陸前高田市はことしの4月から新総合事業に移行している。移行したといっても新たなサービスをつくったわけではないので、具体的な面では今までと変わっていない。今年度、新総合事業を進めるからには、より一層皆さんの暮らしに合った制度にしていきたいと考えている。

今まで、地域包括ケアシステムは全国一律だったが、これからは地域の実情に応じたものが求められている。その地域の実情とは何かというと、「住民同士のつながり」「人口構成、高齢化の進展状況」「社会資源の有無」がある。新総合事業を推進していくためには、何といても高齢者の社会参加、地域住民同士のつながりが欠かせない。社会参加のためには先ほどのNPOの活動とマッチングする必要もあると思っている。

きょうは総合事業の構成として、「訪問型サービス」「通所型サービス」「生活支援サービス」を紹介する。

まず「訪問型サービス」。今までは全国一律にヘルパーが家庭訪問をして、身体介護や生活援助をしてきた。現行の訪問介護制度はヘルパーの資格を持っていることが基本で、保険を使って予防給付という基準であったが、A B C Dとサービス種別がふえ、Aは訪問介護を少し緩和した基準によるサービスで、ヘルパーの資格がなくても職員が対応できる。

次に「通所型サービス」。今までの通所介護は保険内の介護だが、地域支援事業はA B Cと分かれており、通所型Aは緩和した基準によるサービスで、ミニデイサービス・運動・レクリエーション等を行い、主に雇用労働者とボランティアで構成されている。

そして「生活支援サービス」。多様な生活支援ということで、例えば、ごみ出し・洗濯物の取り込み・食器洗い・配食・見守り・安否確認などがある。これらは、研修を受けたボランティアが高齢者と生活行為を一緒に行うことで自立支援を促すことになっている。

以上は、未来図会議で提唱されている「はまってけらいん、かだつてけらいん運動」だが、大切なのは居場所づくりやコミュニティの形成である。一つの事例として、新潟市地域包括ケアモデルハウス「実家の茶の間・紫竹」がある。家賃と光熱費は市が負担し、週に2回（月・水）、参加費300円・昼食代（希望者）300円で利用できる。この目的は、人と人、人と社会のつながりの場づくりで、子供からお年寄りまで、障がいの有無を問わず、気楽にいられる場をつくり、助け合える地域づくりにつなげることである。

方針は、赤ちゃんから高齢者まで地域の方たちに茶の間として集まってほしい。参加者は自由に好きなことをしてもよいと気づき、やりたいことをしてもらおう。そのことが誰かの役に立ったと感じてほしい。それがお互いさまの心ということで運営している。

これからの通い場、居場所づくりのためには、例えば「何となく自分たちで集まっているが、もう少し内容を工夫したい。大切なことは、地域の居場所づくりに向けて、立場を越えて一緒にはまかだし続けることである。現在活動しているが、運営費や人材不足などで行き詰まり感があり、今後も継続できるか心配だ」という困り事があれば、NPOや市役所に相談してはどうか。そうすることで、「NPOからの助言や支援をもらう」「地域支援事業を利用して、継続できる活動にする」「どのように実現していくか、地域や行政・社協・NPOなどが一体となって具体的な話をしていく」ことができる。苦痛を感じながらやるのではなく、みずから楽しんで心地よいグループを気負わずに始めてみてはどうか。

#### 復興支援連絡会 佐藤氏：

通所型サービスでA B Cとあるが、実情に合ったA B Cを市として目指しているのか。また、通所介護をする事業所を持っているところが余りないと思うが、市としての対応は。

### 佐藤包括支援係長：

要介護5から要支援1まで同じ曜日・場所で過ごしている。要支援1、2の人たちの受け入れ先や、支援認定されない虚弱な方々も集いの場に誘って、ほかの方々の刺激を受けて元気になり、集いの場を卒業していくことを市として目指している。できれば町に1つくらいずつは事業所が欲しいと思っている。

### 復興支援連絡会 佐藤氏：

事業所の件は、市でも空き家バンクの話が出た。未来図会議だけではなく、いろいろなところで話が出れば、空き家を利用してできるのではないか。そのあたりを市として総体的にやってほしい。

### (3) グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

テーマ：NPOの力、市民の力、行政の力…が、どうするとつながれますか

- ・地域、NPO、関係機関、専門機関、行政等それぞれのつよみを活かしながら、人財の再発見と育成を積み重ね、具体的につながるために…

### 4 グループ発表：伊藤主任保健師：

NPOとつながっていない理由は、「よくわかっていない」「情報が届いていない」「行政や社協がやるという人ごと意識」「なじみがない」「頼る必要がない」「困っていない」「困ることに気づいていない」などがあつた。

それを解消するためには、「魅力づくり、楽しく、心地よく、自分たちのやりたいことをやれるような活動を続けていくこと」「地域の人たちが地域の問題を理解していない、問題を共有していないので、共有できる場や情報交換の場を持つ」ということであつた。

また、はまかだスポットは点なので、それをつなぐ人が必要。スポットができれば、はまかだコーディネーターを創出して、いろいろな人をつなげると点が線になって面になるのではないかという話があつた。

### 5 グループ発表：高橋保健師：

NPOとつながっていない理由は、「資料を見て、たくさんのNPO団体があることに気づいた。見たことない団体やどういう活動をしている団体なのか気づかされた」という意見が多かつた。「自分たちが困らないと興味を持たない」「関心を向けないこともつながっていない理由になる」「直接的な被災者でないとNPOを利用してはいけないのではないかという感覚もある」という意見が挙がつた。

それを解消するためには、「情報一覧（商店街リスト）が欲しい」「ニーズに合ったNPOを選ぶように、チラシが欲しい」「自分たちで発信することの大切さや情報収集することも必要」「ほかの団体の活動を理解すること」「異団体でも一緒に活動できたらいい」「誰とでも情報交換して地域づくりをみんなでやっていきたい」などの意見が挙がつた。

## 6 グループ発表：千葉保健師：

感想から話をしたが、「NPOを初めて知った」「法人でしか知らなかった」「やりたいことをやれることがすてき」「やりがいを感じながら活動しているところがいい」「どんな活動をしているかを知らせると、NPO活動も住民に入っていける」という声が出た。

あとは、「中心人物がいなくなると継続できない」「若いマンパワーが不足しているので、ここを手助けしてくれると非常に助かる」という声があった。

### 1 グループ発表：佐藤保健師：

NPOとつながっていない理由は、「十分つながっているが、もっとつながりたい」「NPO同士で目的が違う」「NPOがどういったものなのか知られていない」「住民にとってNPOは特別な集団で、外部の方というイメージがある」「広報や情報にアクセスしづらい」「住民の心にとどまらないから、知られていない」という意見が出た。

それを解消するためには、「NPOの活動を身近なものに感じてもらえるように、わかりやすくかみ砕く努力をしないといけない」「地域の集まりに積極的に参加して、住民と会える機会を逃さないことが大事」「信頼できる人からの口コミが一番。1度でもかかわった人には広げてもらう」「フェイスブックは高齢者には難しいので、直接会って誘う、電話で一本釣りを狙って、つながっていくことがいいのではないか」という意見が出た。

### 2 グループ発表：社会福祉協議会 安田氏：

NPOとつながっていない理由は、「NPOが何をでき、何をしているのか知らなかった」「知っている方が立ち上げたNPOなら、情報が入りやすい」「リストなどがあっても、そこにアクセスするのは勇気が要る」「わからないことが次の行動につながるということに結びつかない」「専門性がどこまであるのか。落とし込むまで難しい」と感じた。

それを解決するためには、「それぞれが何をしているのかわかるように、顔と顔が見える“人”を知る」「気軽に話しやすい関係性」だと思った。

### 3 グループ発表：大和田介護予防指導員：

NPOとつながっていない理由として、「名前が横文字（NPO）で想像がつかない」「NPO法人という肩書きに敬遠する」「活動の内容を深く理解していない」「NPOの中にどのような人材がいて、どう活用していいのかがわかりにくい」「メンバーを知らないので、つながりにくい」「団体が多過ぎて複雑」「どのような人が参加しているのかわからないので、ちゅうちょしている」「一つのNPO法人が特定の地域や人物としかつながっていないイメージがある」「高齢者にネット等は難しい」「新たにつながりをつくること、持つことに意義を見出せない」「住民が依存している」「イベント開催がメインで、日常生活の中でつながるイメージが持ちにくい」などが出た。

それを解消するためには、「対象に合わせた広報活動」「代表者以外のNPOで活動をしている方の顔を知る」「地域住民との懇談の場があれば、ニーズの把握ができる」「身近なニー

ズを知る」「地域行事をNPO法人が企画するのではなく、住民と一緒に」「イベントではない、日常的な活動のアピールを積極的にする」ということが出た。

#### **地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

ボランティアを活動的に行うと「自分が元気になる」ということを、みんなで持ち帰り、周りにどんどんつないでいきたいと思った。

### **3 その他連絡・アナウンス**

#### **旭 俊臣氏：**

私もこちらに来て6年目になるが、きょうもいい話を聞いたので元気を取り戻して頑張ろうと思った。今後は高齢者だけではなく、若い世代の小・中学生に高齢者や認知症の問題を取り上げた講演会をして、何かお役に立てればと思う。

#### **りくカフェ 及川氏：**

市の介護予防事業としてスマートクラブを開催している。9月28日から第3回目が始まるため、参加者を募集中である。8月20日、11時からもとカフェで気仙茶を楽しむ「気仙茶館」が開かれるので参加してほしい。

#### **復興支援連絡会 佐藤氏：**

先日、未来商店街でマグロの解体ショーを開催した。限定200人だったが全て売り切れ、後から来た人は間に合わなかった。その会場で、横田の仮設と気仙町の仮設にいた人が5年ぶりに出会ったということがあり、よかったと思う。今後もこのような活動を続けていきたい。

#### **朝日のあたる家 長友氏：**

「おはやがんす～」訂正が1カ所ある。8月21日（日曜日）に予定していた「タイコクラブのみんなで打楽器演奏を楽しもう！」が、講師の都合により8月27日の土曜日（時間は変更なし）に変更。15時から東北復興応援コンサートがあり一日中楽しめるので、お待ちしております。

#### **大船渡保健所 小本氏：**

脳卒中予防講演会を9月9日金曜日 13時～15時30分、陸前高田市コミュニティホールで行う。健康に自信がある方、自信をなくしがちな方も参加してほしい。健康測定コーナーを設け、血管年齢測定と体組成測定の体の筋肉と脂肪のバランスを無料で測定するので、こちらでもご利用いただきたい。

#### **佐藤包括支援係長：**

地域の支え合い活動の意味と発掘の視点ということで、来週の金曜日に市役所第4号棟第4会議室で午前・午後2時間半ずつ、同じ内容で行う。申し込みはチラシの裏にあるファク

ス番号にファクスをしていただきたい。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

前回 68 回議事録の 5 ページの名前が間違っていた。青い帽子の家主は中野さんと書いていたが、村上さんの誤りだった。お詫びして訂正する。

**◇次回：平成 28 年 9 月 16 日（金）**

メインテーマ（仮）：通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～②

…市内町別の「はまかだスポット」の確認、実際にプロット

町別人口・世帯構成、介護認定率等ともあわせて…

会場：市役所第 4 号棟第 6 会議室